

## 教育情報に関する連絡表

【 教育情報提供者記入欄 】		情報提供年月日	平成27年 9月29日	
情報提供者等	(フリガナ) 氏 名		性 別	① 男性 ② 女性
	住 所	岐阜県 富加 市・町・村 (郡名は記入しない。)		
	年 齢	①20歳代 ②30歳代 ③40歳代 ④50歳代 ⑤60歳代		
	情報の種類	①意見 ②要望 ③情報提供 ④質問		
	回答の希望	① 育委員会の回答を希望 ②教育情報のみで回答は不要		
情報のテーマ	(1テーマにつき、1枚の連絡表をご使用ください。)			
	放課後児童クラブの実情について			
<p>県内A小学校放課後児童クラブで、夏期休暇期間を含めて約2ヶ月間実地により体験する機会を得ましたので、その個人的な感想をご報告します。A小学校は、3学級編成で600人弱の児童が在籍し、1校区・1放課後児童クラブの形態です。この放課後児童クラブの通所者数は夏期休暇期間は全校児童の約15%（100人弱）で、夏季休暇期間以外は、80人弱でした。</p> <p>放課後児童クラブと学校教育の設置目的は異なりますが、両者が指導しようとする対象は、同じ児童であるため、2者間には連携が保たれ、現場ではその向上が意図されていました。</p> <p>特に、夏季休暇での放課後児童クラブは、学校プール、体育館・グラウンドなどの学校施設を使用し、の運営が常態で、放課後児童クラブの指導者が小学校の職員室へ、小学校の教員が放課後児童クラブの現場を訪問するなど、情報の収集と交換が頻繁に行われていました。</p> <p>ここで、放課後児童クラブの児童の中には、保育が行われない日（土、日とお盆の期間）を除いて、ほぼ毎日、朝7時30分過ぎから夕方6時30分頃まで、11時間近くを過ごす者もいて、この子ども達は夏期休暇中、親子一緒での特別の時間がとりにくいのではないかと感じられました。</p> <p>更には、終日の放課後児童クラブでの集団活動からの疲労もあって、帰宅後の家庭学習で、小学校が求める夏期休暇の課題等が十分にこなすことが出来るかと、心配な思いも浮かんできました。</p> <p>毎年、夏休み明けの新学期当初には、親子協同の夏休み研究や工作の力作が出揃い展示されますが、果たして放課後児童クラブへの通所者の内、どれくらいがそのような力作に挑戦でき、協同作業の苦楽を共有できたのか心配になりました。</p> <p>次に、児童の数人ほどには、注意欠如や多動性障がいの傾向が強く感じられました。おそらく医師による診察は受けていなく、学校の授業では支援員の配置対象とはなっていないと思われるのですが、彼らはなんらかの一定の形の支援を受けながら、日々の授業に臨んでいるのではないかと想像されました。</p> <p>折しも当自治体では、8月下旬に初回の総合教育会議が開催され、教師が子どもと向き合う時間をつくるための施策、発達障がいの子どもの対応、放課後児童クラブの進め方などについて意見交換がされたとの報道がありました。今後において、発達障がいを持つ児童と彼らの放課後児童クラブで</p>				

の生活について、その支援のための十分な協議が行われることが望まれます。

最後に、9月上旬に、放課後児童クラブの保護者あてにアンケートが実施され、放課後児童クラブの時間や料金など、現状に対する満足度や要望などの設問や、その必要性や効果などへの意見が尋ねられました。このようなアンケートは放課後児童クラブを運営する指定管理者にとって事業評価と再設計には欠かせないものとは思いますが、保護者から放課後児童クラブへの意見提出とは逆の方向の情報伝達で、放課後児童クラブ運営側（指導員）からの、児童毎の真の姿の現状伝達が出来ないものかと感じました。

このようなことは学校現場での児童の姿の評価とは異なり、制度的な根拠はなく、行っても現状伝達の基準さえ曖昧にならざるを得ないので、保護者の理解も難しいところがあるかもしれません。

しかし、児童一人一人が主役で、放課後の安らぎのある居場所作りのためには、密接な双方向の情報やりとりが必要ではないかと感じました。

以上、報告とさせていただきます。